

● 診療科の特色

当科は平成11年7月より開設された部門である。

現在は指導医1名、専攻医1名で診療を行っている。

形成外科のほぼ全般にあたる診療を行っているが、現状では約8割が小児の症例となっている。

なかでも乳児血管腫、太田母斑、異所性蒙古斑などの血管腫、あざに対するレーザー治療が診療の中心である。小児であざの面積が広範囲の場合は入院、全身麻酔下での治療も行っている。

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 806 件

	手術名	件数
1	外傷	21
2	先天異常	74
3	腫瘍	153
4	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	15
5	難治性潰瘍	1
6	炎症・変性疾患	12
7	美容(手術)	0
8	その他	29
9	レーザー治療	501

● 研究業績

学会発表

- 1) 遺伝性乳房卵巣癌症候群(HBOC)の両側乳頭温存乳房切除術に対し両側 PAPflap による乳房再建を行った1例
竹内 優
第 66 回日本形成外科学会総会・学術集会 2023 年 4 月 26 日～4 月 28 日
- 2) 巨大色素性母斑に対するキュレティングとチェッカーフラッグ法を用いた症例
末延 耕作
第 66 回日本形成外科学会総会・学術集会 2023 年 4 月 26 日～4 月 28 日
- 3) 汗管腫に対して CO2 レーザー照射療法(チェッカーフラッグ法)を施行した一例
仁熊 七海
第 66 回日本形成外科学会総会・学術集会 2023 年 4 月 26 日～4 月 28 日
- 4) 当院で行っている巨大色素性母斑に対する治療について
末延 耕作
第 34 回川崎医科大学形成外科学教室同門会学術集会 2023 年 5 月 20 日
- 5) 眼科領域悪性腫瘍切除後の当科における下眼瞼再建の検討
竹内 優
第 84 回中国・四国形成外科学会学術集会 2024 年 2 月 4 日